

No. 1239

秋の高山まつり

飛驒の山あいには、いま、静かな秋を迎えた。高山の町は訪れる観光客で賑わいを見せている。毎朝、開かれる朝市。江戸時代から米市、花市として発達したこの朝市、今では四季折々の特産物が並び高山の風物詩になっている。

豪華な屋台で知られる秋の高山まつりが10月9日、10日に行われた。八幡神社境内には11台の屋台が並び、雄そうな時代絵巻を繰り広げた。祭好きの飛驒人にとってこの祭は長い間の心の支えであった。人形をヒモであやつるからくり奉納。これは布袋台と呼ばれる屋台で行われる。屋台のひとつひとつに高山の文化、飛驒の匠の技と心意気が脈々と受け継がれていた。この祭が終ると飛驒の冬はそこまできている。

北方領土

盛りあがる世論

オホーツク海に浮ぶ北方の島々。歯舞・色丹・国後・択捉、北方領土は我が国固有の領土である。10月5日、東京・九段ではこれら北方領土の返還を要求する全国大会が開かれた。戦後32年、一日として休む事なく叫び続けられてきた北方領土の返還要求。その声は高まり広く全国に盛り上がっている北方領土復帰運動はまづ根室にあがった。各地で講演会や研修会が開かれ、街頭では署名運動が行なわれた。このような声を背景に、都道府県や市町村で「北方領土復帰促進を要求する決議」を続々と決定。国会でも昭和48年9月20日、衆議院で同25日、参議院で「北方領土の返還に関する決議」が行なわれた。この年10月、田中首相は北方領土問題などの懸案事項解決のためソ連を公式訪問、席上田中首相は北方領土の返還を強く求めた。その結果、北方四島は第2次世界大戦時からの未解決問題であるという共同声明が発表され、引き続き交渉を行うことを合意した。

島々に囲まれた北方海域はコンブ、サケ、マスなど水産資源が豊富で世界三大漁場の一つである。この漁場をめぐる、今年から実施された200カイリ水域で日ソ両国の主張が対立、「日ソ」「ソ日」漁業協定は暫定的なもので真の解決を見ていない。そのためにも必要な北方領土の返還、国民世論の盛りあがり、これからの交渉に大きな力となる。